

18歳選挙権

高校生の政治活動 制限・禁止する 文科省通知

憲法 内心・思想信条の 自由を保障すべき！



文部科学委員会で
質問する大平喜信衆院議員

動画を
ご覧ください。



日本共産党

大平喜信衆院議員（比例・中国）が文科委員会で追及

日本共産党の大平喜信衆院議員は3月9日の衆院文部科学委員会では、選挙権が満18歳に引き下げられたのにもなって文部科学省が、高校生の政治活動を制限・禁止する「通知」（昨年10月）を出した問題を取り上げ、学校への届出制の導入を含め、「通知」は憲法や子どもの権利条約に反すると追及し、「通知」の撤回を求めました。

「有権者としての活動を尊重」と矛盾する政治活動の制限「届出制」の不当性が浮き彫りに——憲法規定にも反する

大平議員は、制限・禁止の対象となる政治的活動という行為が法文上の定義でないばかりか、大変範囲の広い概念であり、その判断を学校・学校長に任せること自体が問題だと指摘。「通知」が高校生の選挙活動・政治活動について尊重するとしながら、「政治的活動を」必要かつ合理的な範囲で制限する」とするのは矛盾していると追及しました。

さらに大平議員は、各地の自治体で導入が検討されている届出制について、「聞きに行く街頭演説の一つひとつを事前に全て届けださせるのか」「政党に入党したら届けさせるのか」などと具体例を挙げ、ただし、届出制の不当性を浮き彫りにしました。

「学校が適切に判断する」

無責任な答弁に終始

馳文科相

大平議員の追及に対し、馳浩文部科学大臣は「必要かつ合理的な範囲内となるように、各学校等において適切に判断する」と無責任な答弁を繰り返しました。

こと自体が、憲法で保障された内心・思想信条の自由を侵害する」と強調。「高校生たちにも政治活動の自由が全面的に保障されるべきだ」と文科省通知の撤回を求めました。

高校生も通知の撤回を申し入れ

文科省通知をめぐり高校生からも「選挙権を引き下げながら、政治活動をするなどというのは、意味が分からない」「私たちに投票に行ってもほしくないのか」などの声があがり、2月24日には「平和な未来をつむぐ高校生の会」が文科省に「通知」の撤回を申し入れています。

大きな反響——野党席からも「いい質問だ」の声援も

この日の文部科学委員会には、青年や教師など多数の傍聴者が訪れ、大平議員の質問を傍聴するなど注目を集めました。傍聴した教師の一人は「現場のことがよくわかっていて質問で、通知の不当性がいつそう明らかになった」と感



想を語っていました。また、自民党など政党の入党年齢が18歳であることを示して馳大臣を追及した質問などに、野党席から「いい質問だ」と声がかかるなど、大平議員の質問に大きな反響がありました。